

2019年7月3日

2019年度「大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度」の支援対象

日本社会心理学
会長 唐沢かおり

2019年度「大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度」の支援対象について、規程に従って下記のように選考を行いました。研究支援担当常任理事・岡隆氏（日本大学）を委員長とし、石井敬子氏（理事：名古屋大学）、北村英哉氏（理事：東洋大学）、大沼進氏（北海道大学）、工藤恵理子氏（東京女子大学）の各氏を委員とする選考委員会が構成され、慎重な審議をお願いしました。その結果、総応募件数14件の中から6名（大学院生の応募件数11件の中から5名、若手研究者の応募件数3件の中から1名）を支援対象候補者として推薦することに決定しました。これについて、常任理事会および理事会にて審議の後、承認されました。

なお支援金額は、規定に従い「航空運賃の半額+学会開催日数×10000円」とします。支援対象者の皆さんは、発表の完了後、支援申請金額の根拠となる書類を添えて速やかに学会事務局に申請して下さい。

<支援対象者（申請受付順、敬称略）発表題目、発表学会>

1. 大学院生

- ・古橋健吾 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程1年

Switch, and ye shall find: The effect of switching helpers on perceived stress in help-seeking situation.

(The 13th Biennial Asian Association of Social Psychology. 台北, 台湾. 2019年7月11日~7月13日)

- ・舘石和香葉 北海道大学大学院文学研究科修士課程2年

The effect of universal institutions on intergroup cooperation.

(The 18th International Conference on Social Dilemma. アリゾナ州セレナ, アメリカ合衆国. 2019年6月3日~6月7日)

- ・鈴木啓太 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程2年

Task choice strategies of entity and incremental theorists in daily lives: Investigation through situation sampling method.

(The 13th Biennial Asian Association of Social Psychology. 台北, 台湾. 2019年7月11日~7月13日)

- ・ターン有加里ジェシカ 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程2年

Who is moral and competent in the volunteer's dilemma and why?

(The 21th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology. ニューオーリンズ, アメリカ合衆国. 2020年2月27日~2月29日)

- TAYLOR Pamela Marie 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程3年

Is horror an emotion? An empirical dissociation of horror from awe, disgust and fear.

(Society for Australian Social Psychology Annual Conference. ニューサウスウェルズ大学, オーストラリア. 2019年4月25日～4月27日)

2. 若手研究者

- 宮川裕基 追手門学院大学心理学部・特任助教

It feels like a bad thing happened a long time ago: Self-compassion and time perception of past negative events.

(The 21th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology. ニューオーリンズ, アメリカ合衆国. 2020年2月27日～2月29日)

以上